

令和5年度 第1回 垂水市総合教育会議

1. 日 時 : 令和 6年 1月 26日 (金) 14:30 ~ 16:00
2. 場 所 : 垂水市市民館2階 大会議室
 1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 協 議
3. 会 次 第 :
 - (1) 垂水市教育大綱の策定について
 - (2) 意見交換
 - (3) その他4. 閉 会
4. 出 席 者 : ・尾脇市長 ・坂元教育長
5. 教育委員会
同 席 者 : ・田原教育委員 ・葛迫教育委員 ・田之上教育委員 ・福里教育委員
・堀留教育総務課長 ・川崎学校教育課長 ・大山社会教育課長 ・米田国体推進課長
・森永福祉課長 ・小池補佐兼庶務係長 ・明石庶務係主事 ・前田庶務係主事
6. 傍 聴 者 : なし
7. 事 務 局 : ・草野企画政策課長 ・羽生主幹兼政策推進係長 ・隈崎政策推進係主事

企画政策課 草野課長 … 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中お集りいただきましてありがとうございます。企画政策課の草野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

会議の開催に先立ちまして、本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項に基づき、原則公開となっております。本日の協議については、非公開事由に該当する協議事項はないと思われまますので、会議を公開することといたします。

また、会議録作成につきましては、同条第7項及び垂水市会議録の作成に関する規程に基づき、全文記録とし、後日ホームページ上に公開いたしますのでご了承ください。

それでは、会議の出席者が皆様お揃いでございますので、少し定刻より早いですが、只今より令和5年度第1回垂水市総合教育会議を開会します。

はじめに、尾脇市長から御挨拶をお願いいたします。

尾脇市長 … 皆様、改めましてこんにちは。垂水市長の尾脇でございます。まずは1月1日に発生いたしました能登地震におきまして、お亡くなり

になられた皆様の御冥福をお祈りしたいと思います。また被災をされた全ての皆様に、心からお見舞いを申し上げますと共に、一日でも早く復旧復興を願うばかりであります。本日は教育委員会の皆様におかれましては、日頃から本市の教育行政の活性化のために、教育関係の諸行事への参加や、学校教育活動への助言等をはじめ、重点施策の具体策について御審議いただいておりますことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

さて、新型コロナは感染症法上の位置づけが、昨年5月に5類に移行して半年以上が経過いたしました。学校現場におきましても行事等が再開し、子供達の元気な声が聞こえてくるなど、徐々にコロナ前の日常を取り戻しつつあるのではと考えているところでございます。

一方で、元旦に発生いたしました能登半島地震や、昨年より続くウクライナの武力侵攻や、物価高などの社会情勢は決して明るいとは言えず、子供達の感情や学習に対する姿勢などにも、少なからず影響を与えているものではないかと危惧をしているところでございます。

そのような中、本市といたしましては、子供や学校に対して将来の予測が困難な時代における、確固たる教育の方向性を示し、本市の将来を担う子供達の育成に努める必要があると考えているところでもございます。

そのようなことから本日は、今後5年間の教育行政推進の羅針盤となる、教育振興基本計画の策定について、基本となる考え方や方針、政策目標などにつきまして検討していただきたいと考えているところでございます。

事務局の説明の後、意見交換を行わせて頂きたいと思いますので、教育委員の皆様より忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

結びに、本市の教育がさらに充実し、垂水の子供達が未来に向けて自らが社会の創り手となり日本や世界で活躍する子供達へと成長していきますよう祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくようお願い申し上げます。

企画政策課 …
草野課長

ありがとうございました。
それでは、協議に入りたいと思います。
ここからの進行は、尾脇市長にお願いしたいと思います。
よろしくようお願いいたします。

尾脇市長 …

それでは、まず、協議事項（1）垂水市教育大綱の策定につきまして、教育総務課長及び学校教育課長の説明をお願いします。

教育総務課 …
堀留課長

皆様、お疲れ様です。教育総務課長の堀留です。どうぞよろしくお願い致します。

それでは本日の協議題である垂水市教育大綱の策定について教育委員会から、施策の大綱と教育振興計画をテーマにこれからご説明させていただきます。

本日のテーマはここにある通り、

- 1つ目は、施策の大綱と教育振興基本計画、
- 2つ目が、教育振興基本計画の策定体制とスケジュール
- 3つ目が、国・県の教育振興基本計画
- 4つ目が、計画策定に向けて

ということで、ここの部分は学校教育課長に説明いただく予定です。

私の説明は5分程度で端的に終わらせたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、1つ目の教育施策の大綱と、教育振興基本計画について説明いたします。施策の大綱でございますけど、施策の大綱、教育振興基本計画、どう違うのかというのがありますので、ここにポイントを示させていただきました。始めに施策の大綱ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に、これに基づきまして市長が定める教育、学術及び文化の振興に関する、総合的な施策の大綱として定められております。一方、教育振興基本計画は、教育基本法により地方公共団体が定める、教育の振興のための計画というように、使い分けがされております。見てお分かりの通り、ポイントとしては、大綱は市長が定める一方、基本計画は地方自治体、教育を司る執行機関である教育委員会が定める、とこういう違いがあります。ですので、教育振興基本計画については執行機関である教育委員会が作る、それを総合教育会議、この会議なんですけれども、その中で市長が定める施策の大綱として、この会議で策定するみたいな使い分けをされておりますので、今日の会議では、通常の定例会では教育振興基本計画を審議していただくのですが、総合教育会議では施策の大綱を審議するという使い分けになりますのでお願ひしたいと思ひます。ちなみに、今の3期の計画ですけれども、これは令和2年の総合教育会議において、市長が定める「施策の大綱」は、この振興計画というふうに決定されておりますので、これはおそらく、市長の方向性と教育の執行機関の方向性が同じ方向を向いてやりましょう、と言うことが基本にはなると思ひますので、そういったことで決定されておりました。今回も同じように位置付けたいと思ひますので、教育振興計画を作る作業に入るんですけれども、そういった点を意識して取り組んでいこうと思ひているところです。

つづきまして、教育振興基本計画の策定体制とスケジュールですけれども、計画の名称は来年度中、令和6年度にこの計画が終了するものですから、令和6年度中に4期計画として策定したいと考えています。計画期間は、令和7年度から11年度までの5年間を想定しているところです。次に策定スケジュールですが、3月までに総合教育会議を開催しまして、策定準備を行いたいと思ひます。そこで4月から具体的な策定作業を始めまして、11月には最終計画案をまとめまして、12月にパブリックコメントを実施し、来年2月までには定例教育委員会で教育振興基本計画を決定し、3月の総合教育会議で大綱として決定する手続きを想定して、動いていきたいと思ひているところです。つづきまして、体制

ですけれども、資料にもある通り下から見ていただければと思うのですが、計画策定ワーキンググループ、これを係長級で組織しまして、素案をつくり調整会議後、課長会議、また政策調整会議等を使って調整作業を行う。その後、教育委員会定例会で決議を行う。総合教育会議では大綱の決定をしていただく、というような流れになります。併せまして垂水市経営会議にも、大綱について決定の報告、同じく市議会の方にも途中経過も含めながら、しっかり市議会の方にも説明をしていきたいというふうに思っているところです。なお、その他にもありますけれども、この手続きの中でパブリックコメント、それから、今日福祉課長も来ていらっしゃいますけど、子ども子育て会議での審議というのを現時点で想定しているところです。次のページになりますけど、今回の策定にあたって、国から通知が届いております。その内容は、国は子供施策を社会全体で総合的にかつ強力に推進することを目的に、こども基本法が令和5年4月に施行されておりますけれども、このため、こども基本法に基づいて、こどもの意見などを聴取し、反映していくように要請があったところです。また、子ども政策担当部局ともしっかり連携をして対応していきなさい、といったような内容でございます。対応策にもある通り、本市教育委員会の対応策としましては、市長部局の福祉課としっかり連携していきたいと、また子どもの意見については、本市はGIGAのまちでもありますので、タブレットを活用した形で意見を集めていきたい、というふうな取り組みを考えている所でございます。

次に、3番の国・県の教育振興基本計画についてご説明したいと思います。皆様方には、国の教育振興計画、これは令和5年6月に閣議決定されたもの、それから鹿児島県教育委員会が、現在、パブリックコメントなのかな、教育振興基本計画の案ということで、この計画の基本方針と、5つの基本的な方針を出してみました。この中身については、後ほど学校教育課長が説明しますので、基本方針の5つの基本的な項目の部分だけ出したんですけども、ちょっと太字になっている5つの基本的な方針、基本方針で言えば新たにウェルビーイングの向上、これと、5つの基本的な方針の②と④のところ、太字になっていると思うのですが、この2つが前回の計画から追加された内容になっていますので、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す、というふうな考え方、教育デジタルトランスフォーメーションの推進、DXの表現、これが国の今回の大きな方向性の一つと言えらると思いますので、ご確認いただきたいと思います。次に、県の計画ですけれども、先ほども申しましたように策定中なものですから、パブリックコメント等を経て、また細かい表現は変わってくるかもしれないんですけども、基本目標と具体的人間像が示されたところです。太字になっているところが、前回の計画との違いになっています。基本目標については、今回は「ともに未来を創る」という表現をしていますけれど、これまでの表現は「創る」ではなくて、「担う」という表現をされているというのが大きな違いなのかなと。な

ので、具体的な人間像のところも、「未来の社会の担い手」という表現が「未来の社会の創り手」と表現がなっていますので、そういったところが違いなのかなと、そのような印象を受けたところです。今日お配りしている資料にも表があると思うのですが、この資料は、左側の部分が市の計画の、今の3期の計画の既存の計画、右側が県の新しい計画の案になります。ここにあるように、基本的な構成、1章・2章・3章・4章・5章の流れが、ほぼ県を踏襲した形で作られているところなのですが、赤のところは、県と市の今の計画、県の新しい計画、市の今の計画、ここの違いを赤字で表現しています。先ほど言ったDXの話とか、担い手に関する部分とか、こういった要素で細かいタイトルが変わっております。今後4月以降計画をつくる際も、こういった構成は踏襲しながら、今後垂水に合った考え方をしっかり盛り込んでいって、作っていければというふうに思っているところです。

簡単に、策定の考え方とかスケジュール感とかポイントを私の方で話しましたが、続いて学校教育課長が国の政策の計画の具体的な説明があると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

学校教育課 …
川崎課長

それでは私の方からは教育総務課長の方から話がありました通り、国・県・本市が作っていったものをお話しさせていただければなと思っています。

教育振興基本計画は、先ほど市長のお話の中にもありましたとおり、今後5年間で教育行政推進の道しるべとなるものであり、国・県・市町村ごとに策定すべきものである、というふうに考えています。垂水市の第4期教育振興基本計画策定に向けて、まず国のコンセプト、基本方針、そして県の特徴、そして垂水市の基本計画の策定の仕方という4つの流れでご説明いたします

まずは、国の計画についてご説明いたしますけれども、我が国の教育をめぐる状況としましては、この5年間で大きな変化がございました。例えば、新型コロナウイルスが発生しまして、子ども達の様々な交流や体験活動の機会が制限されました。また、本市もそうなんですけれども、予想以上のスピードで少子高齢化・人口減少が進み、一方、コロナ禍をきっかけとしてGIGAスクール構想が一気に進んだという点もございません。国際的には、ウクライナやガザ地区の戦争など世界情勢が不安定化し、VUCA（ブーカ）といわれる不確実な時代となっています。これらの先の見えにくい、混沌とした世界をこれから生きていく子ども達には、これまで以上に、精神的な豊かさ（ウェルビーイング）を向上させていくことが大切であると考えています。これらの大きな変化の中でしたけれども、国は、第3期の取組を通して、次のような成果があったと示されています。まずは、学力水準については、国際的に高い学力水準が維持されてきたということ。それから、GIGAスクール構想を前倒しで推進したということ。さらに、小学校の35人学級の実現のために、教職員の定数改善を図るなどしてきたというようなことが成果として示されてい

ます。一方、課題としましては先ほども申しました通り、コロナ禍により、子ども達の交流や体験活動が制限され、不登校やいじめの重大事態が増加してきているというふうに言われています。また、教員の長時間労働と、教員へのなり手不足、この問題が表面化してまいりました。また、コロナを背景に地域の教育力が低下し、また教育格差の拡大が見られるようになってきて、厳しい家庭環境の家庭が増えてきているという課題も示されています。

これらの事を受けまして、国としては今後5年間の第4期計画作成に向けて、次2つのコンセプトを掲げました。これは先ほど、教育総務課長の方からも説明があったところです。1つ目は、「持続可能な社会の創り手の育成」、もう1つが「ウェルビーイングの向上」。この2つのコンセプトは、県や市町村の基本計画に生かすべき大切な方針になると考えます。国としては、これまでの教育施策を活かしながら、また、見直しを図りながら、先ほどの「持続可能な社会の創り手も育成」「ウェルビーイングの向上」これを図っていくために、次の5つの方針を立てています。

1つ目が、「学び続ける人材の育成」

2つ目が、「誰一人取り残さない共生社会の実現」

3つ目が、「共に学び支え合う社会の実現」

そしてその基盤としまして「教育DXの推進」「基礎整備」となっています。そしてこの5つの方針をもとに、第4期の国の計画では、16の教育施策の推進を設定しています。

この16の教育施策の推進につきまして、少しお時間をいただきまして説明をしたいと思います。まずは、豊かな学力の向上。これまで取り組んできました「個別最適な学び」「協働的な学び」を継続し、「学修者主体の教育」を目指すというところがございます。2つ目が、豊かな心の育成です。生徒指導提要も改訂されましたが、個々の成長を支える発達支持的生徒指導への転換が求められています。また、本市も大切にしている、読書活動や自殺対策・体験交流活動も示されています。3つ目の「健やかな体の育成」では、本市では今年度から無償化していただいた給食・食育の充実や生活習慣・運動習慣の確立が示されています。4つ目の「グローバル社会への対応」では、海外留学の推進や外国語教育の充実が示され、5つ目の「イノベーション人材の育成」においては、主に高校・大学等の高等教育に関係がある内容ですけれども、探究学習や理工系教育・女性の活躍などが示されています。6つ目の「社会参画・規範意識の醸成」では、子供の意見表明の場の設定や主権者教育。7つ目の「多様なニーズへの対応」では、特別支援教育の充実や不登校支援、福祉部局と連携したヤングケアラーや貧困対策などが、示されています。8つ目の「生涯学ぶ環境づくり」では、社会人の学び直しのためのリカレント教育や、生涯を通じた文化芸術活動など、主に生涯学習の分野の施策が示されているところがございます。9つ目の「地域の教育力の向上」

では、本市でも取組んでおります、コミュニティスクールや家庭教育支援・部活動の地域移行など、地域連携の施策が示され、10番目の「社会教育の推進」においては、社会教育施設機能の強化や、地域課題の解決に向けた関係施設間の連携などが示されています。また、11番目の「教育DXの推進」につきましては、垂水が先んじて取組んでいるものです。2年後に、タブレット端末更新時期を迎えますけれども、今後引き続きGIGAスクール構想を推進して参りたいと学校教育課で考えているところでございます。12番目に「教育研究基盤の整備」とありますが、業務改善を通じまして、効果的な教材研究等を先生方が進め、教育の質を担保する取組みです。13番目の「質の高い学びの保証」のためには、本市でも行われている、教育費の負担軽減や過疎地域支援など、教育格差の是生に資するものです。14番目の「NPO等との連携」については、様々な機関や団体との積極的な連携の強化、15番目の「安全確保」については、安心安全の確保でございますけれども、桜島が間近にある本市では、来年度から文科省の指定を2年受けまして、北部の3小学校、松ヶ崎小学校を中心として牛根小、協和小の3校で防災教育の研究実践を行う予定になっています。16番目の「対話を通じた計画策定」では、GIGA端末を活用して、児童生徒の意見を集約して、基本計画策定に反映してまいりたいと考えております。県や市町村は、このような国の方針に基づいて、自治体の実態や教育理念をもとに、第4期の計画を作成していくこととなります。

次に、県の教育振興基本計画の素案が出されましたので、その特徴を見ながら、本市の計画策定に参考になると思われる点を、主に5点示したいと思います。まず1点目ですが、県の資料がもしございましたら開けていただければと思いますけど、3ページから33ページをご覧ください。3ページから33ページにかけて、第3期の取組、これの成果や課題が表やグラフ等の資料を使って示されることで、第4期の目標や取組の位置づけが明確になっているなというふうに感じております。市の教育委員会としましても、毎年の進捗状況を点検・評価しているところでございますけど、そのような年度ごとの取組の点検・評価の観点からも、できるだけ具体的な数値目標を設定していくことが有効であると考えます。つづきまして2点目ですけれど、基本目標に関することですが、県の資料の34ページをご覧ください。堀留課長の方からも説明がありましたけれども、国の2つのコンセプトを取り入れた、第4期の県の基本目標が設定されています。例えば、「持続可能な社会の創り手の育成」については、34ページの一番上の所にあります、「ともに未来を創る」という部分に反映されています。「ウェルビーイングの向上」につきましては、サブテーマの方の「誰もが幸せや豊かさを感じられる」という部分に反映されていると捉えることができます。このように、各自治体の教育理念を大切にしながら、国のコンセプトを基本目標に取り入れる手法は、大変参考になるのではないかなと考えています。3点目です。5年間で

取り組む施策についてですが、県の資料の38ページをご覧ください。県では、38ページからの「6つの視点」のもと、40ページの「5つの方向性」に整理されておりますけど、若干視点と方向性というのが、分かりにくいかなというふうに感じております。そこで、市の計画策定の際は、もう少し分かりやすくするために、例えば、42ページの関連図で説明しますと、「方向性」というところを「施策」として考えて、その下の方に具体的なことがずっとありますけど、そこを「具体的な施策」という風な、分かりやすい表現に整理した方が、読む方も分かりえるのではないかなと考えます。つづきまして4点目ですけれども、ここは参考にしたい部分ですけれども、県の資料の44ページからご覧ください。44ページからは、具体的施策ごとに、現状と課題、方向性、主な取り組み、このような順で詳細な説明がなされており、大変わかりやすくなっていると感じます。1点目の説明でもしましたけども、数値目標の必要性について説明しましたが、県では、例えば56ページをご覧ください。56ページのように、方向性のまとまりごとに目標を数値的なもので示している、ということになりますけれども、出来ましたら、56ページ57ページのようなものは、一覧として残しておきながら、44ページの2番目の項のところに、具体的な数値目標を入れ込むというのも1つの分かりやすい方法かなと思っております。また、同じ2段目の欄に、子ども達の意見、これを示すという非常に分かりやすい考えであります。5点目ですけれども、施策の軽重についてです。県の資料の42ページをご覧ください。県では、それぞれの係や担当部署で分担して施策遂行を行っておりますけれども、市町村ではなかなかマンパワーの面でそうはいかない現状がございますし、また特に大事にしている施策、例えば学校教育でしたらGIGA スクール構想・学力の向上・英語教育等がございますけれども、一見して本市教育行政で特に大切にしている重点施策がわかるようにできればな、というふうに考えています。例えば、このようなグランドデザインを作るというのも1つの方法かなと考えています。中心の部分に重点的な施策を配置しまして、その周りのところに、その他取り組むべき施策を配置するというのが、パッと見て垂水市はこういう事を大事にしているんだな、というのが分かりやすいかなというふうに思います。ここでも学校教育課関係の分を3点ほど載せてございますけど、社会教育課や教育総務課の重点施策も、この中心の中に、いくつか入るのではないかなと考えています。

これまでご説明した事をまとめてみますと、このような5点について工夫して作成していけば、これまで以上に実効性があり、点検評価がしやすい教育振興基本計画になるのではないかなと考えております。時間になりましたので、説明を終わらせていただきたいと思います。

尾脇市長 … はい。ありがとうございます。

ただいま、教育総務課長及び学校教育課長より説明がございました。それでは、そのまま(2)意見交換に移りたいと思います。

まず、私の方で少々思いを語らせていただいて、その後、教育委員の皆様からお一人ずつご意見をお伺いして、最後に教育長より総括的にご意見を伺うという段取りにしたいと思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております

私の方からですね、今それぞれ説明があって、国の考え方を基にして県が絵を描き、それを基にしながら垂水市としてどうやっていこうかということなのだと思います。細部にわたりましては、それぞれ専門的な立場で、ご指導いただきたいと思っておりますけど、私の立場で言いますと、子ども達というのは、いつも申し上げておりますが保護者についてはもちろんですけど、垂水の未来を明るくする宝だというふうに思っています。そのために、子育て支援、教育の充実という事をこれまで政策の中心に進めてまいりました。具体的には、子育て支援、教育の充実、具体的なものとしては、昨年9月から実施をしてまいりました、給食費の無償化ということでございます。置かれた環境によって、基本的な食するというところに、影響がないようにと、議会のご理解をいただいて、年間5,000万位ですけれども、予算措置をさせていただいております。それから、医療費の無償化、窓口負担0というのが最近また言われておりますが、高校生までの医療費、窓口負担ありというのは県内で最初に垂水市としては実施をいたしました。そのうえで、病院に行くのが関係しますから、県下全体で県がやらなければいけないという話なんです。なんですけど、僕は我々の裁量を超えていると思っておりますので、これは知事のご判断をいただくという事になります。垂水市にも薬局含め、22の医療機関がありますので、全体的なことはそういう事情がありましたけれど、垂水市として例えば中央病院に行く、いろんな所に行ったときに窓口負担ができないか話をしまして、担当の福祉課の方で検討していただいて、この3月いっぱい上程をして議案が通れば、垂水市内の機関からでも実施をしようということで、準備を進めているところでございます。保育料の無償化、このことも形にしていきたいというふうに思っています。また、今村総合病院というのが鴨池にあるわけですけど、そことも連携を取りながら、産婦人科のサテライト方式ということで、この春今年度に、近く開設の予定でございます。なかなか産婦人科の希望というのは昔からあるわけですけど、総合ベースでいきますと一年間に約250産必要だということでございますので、垂水市の現状50産前後となりますと、普通に考えてマルかバツで言いますとバツなんです。なんですけど、そうではなくて、10年前から実は話をしておまして、2年前に当時今村部長さんだったんですけど、理事長になられて、2年前に再会をいたしまして、連携協定を結ばせていただく中で産婦人科のことも含めて、お話をしましょうというのがこの春形になっていくということでございます。出産までに十数回少なくとも健診をするなど、身重な体でフェリーを渡って行くというだけでも大変だという事でもございましたので、垂水にあれば行ける、場所的には、よしとみさんの前の旧

重山歯医者さんのところをリノベーションして、活用していくということでもあります。ああいう施設を垂水市立で作りますと、土地の購入とか、建物等で数億円かかってしまいますけど、あそこの場所を有効活用という事で、数千万の予算で形になりましたし、垂水市立にしてしまいますと、お医者さんとか看護師さんとか人件費だけでも年間 3,000 万以上かかってしまいますので、その分は今村さんのサテライトということですから、今村さんがそのことを念頭に見て、赤字が出たときにはこちらが補填するという仕組みにしておりますので、小さな投資で大きなスタートができて良かったなと思うところがございます。またハード面におきましても、遊ぶ場所がないと昔から言われておりましたので、まずは皮切りに道の駅はまびらを開設をして、その隣にたるたるパークという公園を設置いたしました。また、中央体育館のお隣に公園がありましたのでそこを整備して、旧鉄道跡地のところに整備をいたしまして、つい先週位でしたか、中央公園と海浜公園の部分にも遊具施設をオープンしておりますので、そういった意味では、少しずつその子ども達が充実した環境を整えていくという事でございます。それから、いわれもなく教育に関しては、GIGA スクールということで、これまで GIGA スクール構想を実現するためには、光の整備というのが不可欠だったのですが、ちょうどコロナの前まではですね、中央エリアはあったのですが牛根の道の駅から境に向かって、また浜平の道の駅から新城に向かってのこの区間が開通しておりませんでしたけど、ピンチをチャンスにとコロナの交付金を活用して、約 3 億円のお金を投資でそこに光を引いて、それと教育委員会の皆様の頑張りで、GIGA スクールが非常に充実をして色んな賞をいただいて、県内ではもうトップということで、全国でも有数の環境が整いつつありますので、そういったものを生かしながら先ほど色々説明がありました方向性に従って、今後 6 年間どうしていくのかということでございますので、これから皆様方のご意見を伺って、そのことを取りまとめて作っていききたいということでございますので、よろしく願いをしたいと思っております

私の方からは以上でございます。

今から、教育委員の皆様方に順番でお話をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは葛迫先生、お願いいたします。

葛迫教育委 …
員

毎年、垂水市内の学校訪問で子ども達の様子を見ていますと、子ども達が一生懸命勉強、そしてスポーツに励んでいる様子が見えました。このことは、学校の先生方や地域の皆さんの協力があったことだと思います。ご家族の方にとっても非常にありがたいことで、学校や地域が子ども達を見つめ、大切に育てている様子が伺えていると思います。また、児童や中学生同士のふれあいも活発で、良い関係であるように思います。コロナ禍以降も、垂水市のお家芸とも言える GIGA を使った勉強で、子ども達には良い環境のもとで学校生活を送っているように思います。た

だ、このGIGAを多く使う事によって起こる不具合が多分出てくると思います。そのときにはやはり、気を付けておくべき問題ではないかなと思っております。来年度より無償化になる学校給食、垂水の食材をふんだんに使った料理は、子ども達の食育として体力づくりの原点になっているようにも思います。とても垂水市の教育状況は素晴らしいと考えます。今後も、垂水市の子ども達の知・徳・体への教育目標は、良い方向へ進むことを願っています。

教育施策目標の8番目にありました、「生涯学ぶ環境づくり」について、説明させてもらいたいと思います。私は生涯学習の講師もさせていただいております。市民の皆さんは、生涯を通して学ぶという目標をもって市民講座に通われていますが、コロナ禍以降、受講生の学びに変化が現れてきました。垂水市では、市民講座15講座を作って受講生を募集していますが、コロナ禍以前と、コロナ禍以後では受講生の数が大きく違っているように思います。また、講座開講後でも、講座の終了時期になると3割程の受講生しか残っていない、これが現実です。学校教育の場ではそういうことはないと思いますが、生涯学習においては色々な原因によってこういうことが発生していると思います。コロナ禍によることが原因なのか、または講座の日程的なことが原因なのか、そのことをしっかりと把握すべきと考えています。

社会人の学び直しのリカレント教育について、説明したいと思います。私の場合は40歳代でフランスへ美術留学いたしました。そのときに、多くの国の画家の方々と美術学校で多くの技術を学んできました。また、美術館での絵画や彫刻から学び取る、美学の必要性、そうした留学の経験の中から、博物館学を学ぼうと決心しました。留学の後、大学で学び直し今に至っていますが、リカレント教育は自分で必要と思わなければ出来ない学びの教育だと思います。そういう土台が、垂水市には無いのではないかなと、そして分からない、リカレント教育ってどうなのかなというのも分からない。リカレント教育を経験した多くの方々の真の声が出てこない、分かってもらえない。そういう経験者の声を基盤として作っていく必要があるのではないかと考えます。

最後に、教育施策目標の15番目「安全確保」についてですけれど、垂水市は南北に長い地形をもっています。南に新城小学校、北には牛根小学校を縦に、国道220号線が走りその国道を挟んで、西側は錦江湾、東側には高隅山系があり交通量の多い国道が通学路になっています。この国道に代わる、安心安全な通学路の必要性があるのではないかと、そして新しいまちづくり計画の中にも、この通学路のことも入れてほしいと考えます。垂水市には一本しか縦を行き来する道はありません。安心安全のためには、どうしても考えなくてはならない問題ではないかなと考えております。以上です。

尾脇市長 … はい。ありがとうございます。

今、お話をしていただいた、ご意見を参考にしながら、計画を作成し

ていくようでありますので、参考にさせていただきたいと思いをします。

それでは福里委員、お願いいたします。

福里教育委 …
員

はい。私は子どもが小学校5年生と、中学校2年生なのでまさに子育て世代なのですが、給食費を無償化にさせていただいて、すごくありがたい恩恵を受けている年代なんですけど、なかなか少子化に歯止めがいかないというか、昨日も保健課の方に聞いたら、12月まで今年度4月から産まれた人数は29名ということで、去年とその前が大体50人という事でした。明らかに、うちの息子は14歳なんですけど、その頃は垂水小学校だけでも80人いました。だけど今度の小学校1年生は垂小入学だけでも47人ということで、何があれなのかなと、今子育てすごくしやすい時代だと思うんですけど、経済的な面でもだし、GIGA的な面でもアナログ世代の私にとっては、子どもの上達ぶりをみると、学校でも色々してくださっているんだとありがたいなっていう反面、幼稚園をしている身にとっては、この29人ってすごく問題的な数字だなんて言うふうに思いました。今、垂水に居る人たちは、すごくありがたい思いをしているんですけど、わざわざ垂水に住むかというのと、外から入って来るかというとなかなかそこが難しいところもあって、さっきもあつたんですけど、外国語の教育だったりすれば、垂水に来ると中学校で留学に行けるよとか、無償で行くのではなくて、お金を出して、私が子育てしている間になかなか留学なんて難しいことであって、でもやってみたいという気持ちはすごくあって、だけどみんなと一緒にだったら行きやすいと思うんですけど、一人でわざわざ行かせるとなるとすごい決断がいることだと思うので、私の夢なんですけどそういうのがあるとか、あと、垂水高校がなかなか増えないというのであれば、垂水は給食で有名なので、無償でなくても垂水高校の子達にも垂水の給食を食べてもらうとか、他にないことをしないとなかなか垂水は人数が増えないんじゃないかなというふうに思っています。本当に垂水に居る人はありがたいと思っていると思うんですけど、わざわざ鹿児島市内に勤めていて、垂水に住むかというとなかなかそこは難しいと思うので、欲を言えば大きな会社が来てとか、基本的なことなんですけど、もう少し子どもが増えてくれるといいなというふうに思っています。人数が減ってきているんですけど、子供の体力面もだし、勉強はすごく出来るようになってきていると思うんですけど、心の部分で幼稚園をしても先生に平気で暴言を吐いたりとか、今までに無かったことだったり、小学校に1年生も先生に言い返したりとか、そういうのをよく聞くので、心の部分でそれこそ親子でいろんな体験をさせている場所だったりとか、親子の活動も大事なんじゃないかなと、そして私のところは幼稚園なので3歳からしか幼稚園に入れないのですが、正直、3歳まで残っている子っていなくて、大体もう0とか1で入れて、お母さんたちはお仕事をされるというのが現状だと思うんですけど、それが社会なのでしょうがないと思うんですけど、親子での活動、もう少し親が子どもに時間をかけてあげたりとか、そういうのを垂水も大々的にやっ

ていけるとすごくいいのかなと。でも、ピンとこない方もいらっしゃると思うんですが、私も幼稚園で働いている身としたら、もう少し親が子どもに時間をかけてあげたりとか、子どもと一緒にっていうのをすごく力を入れて行ってほしいなと思います。なので、2番の「豊かな心」だったりとか、体験活動をすごく、夏休みになれば鹿児島市だったりすると夏休みの自由研究をする場所だったりとか、昔は科学の祭典ですかね、きららドームがあったと思うんですけど、先生方の負担がすごく大きいということで、無くなったということなんですけど、ああいうのを NPO の方たちにお願ひしてやったりとか、そういうのをしてもらえると良いなと思います。夢ばかりなんですけど、子育てしてて楽しいなって親子で思えるといいのかなっていうふうに、垂水らしいことがたくさんあると思うんですけど、そういうのをふんだんに入れていただけたらなというふうに思います。以上です。

尾脇市長 … はい。ありがとうございます。

おっしゃる通りだと思います。形にするところに難しさがありますが、ただそういうことを話を繰り返していくというのが非常に重要だと思います。毎回お話をさせていただいてることがあるんですけども、1つはその人口減少、少子高齢化社会というのは、国がそういうことでございますので、日本の1億2千万超えてたのが8千万位にはなるだろうと。同様に鹿児島県下で2040年までに後20年切ってますけど、30万人、人が減るという縮図が垂水の中でも50人から20何人と、おっしゃる通りなんですけどね。大きなところで国策として考えていくとは言え、市としてどうしていくのかと、色々ご提案いただいたことがありますので、我々の範疇で出来ることはやるべきだと思うし、これやれるよね、っていうのはやった後なんですけど、やったら大変だよ、くらいのことをやらないと上手くいかないですよ。思い切ってやるって言うのは簡単ですけど、思い切るといのはなかなか公務員の世界では難しいところがあるのは事実です。今、おっしゃった様なことをやるとしたときに、民間だと五分五分でもやるんですけども、市役所のお仕事としてはやはり、8割やらない、2割のリスクがあるから、ある意味やっちはいけないというマニュアルがすでに出来上がっている。でも、8割は良いものなので、それをやれるかどうかによって未来は変わってくるだろうというのは、感覚的には分かります。具体的には、垂中で留学したらいいんじゃないかみたいなのは良いと思いますし、その手前のところで、どうなの海外の修学旅行はみたいなのは、と教育長と話をしていて、何年か前にコロナの前でしたかね、香港に行って、10名位でしたけど、周り子供達も含めて非常に良い影響がありましたし、続けたいという意向はあるんですけど、じゃあ変わるものとして、例えばどこか九州の各県の修学旅行に行くのはいつでも行けるから、おもいきって例えば台湾辺りに行って、親日でもあるし、食も美味しいし、やはりそういう経験、その中でも学ぶことはあるでしょうし、そういうこともやってみたらどう

でしょうかということも話をさせていただいてますし、垂高の給食問題、教育長も良く思っていて、ただ、所管として垂水高校校長に権限があるものですから、相当なアプローチはしています。まず学校給食センターが余っているのだから、お金を払って垂水高校にやれば育ち盛りの子ども達が、コンビニでパンと牛乳じゃなくていいよねウィンウィンウィンだよねって言うのは、教育長含めみんな分かっているんですけど、やっぱりそれをやる際に色んな壁があるんですね。だからそれを取っ払えばいいって、取っ払えるのは取っ払うんですけど、それが県のルールだったり、国のルールだったりってところもあるものですから、だからやらないってことではなくて、そういうところから始めるのが大事なので、非常にある意味、理想みたいな形を言い続けてもらいたいと思うし、逆にそこで圧をかけていただいて、今どうなっていますかみたいな話をさせていただくと、色んなことが形になっていけるのではないかなど。無茶はしてはいけないけど、無理はしないとはいけないと思いますので、やっぱり子ども達の問題を整えるように頑張っていければと思います。

それでは他に、お願いいたします。

田之上教育 …
委員

教育行政に関しましては、給食費の無償化であったり医療費の問題であったり、子育て教育行政、色々な核を一つずつでも講じていただいているときに、出来ることから一つずつ詰めていってほしいなと思っているところです。子ども達にとって、全ての子ども達が最低限の学力を全員につけてほしいということ、その上でやはり健やかな体と豊かな心を育てていく事が大事なことだと思いますので、私も、具体的なことからお話していきたいと思います。

やはり、いじめのことは避けて通れないと思うんですけど、すごく軽微なものから深刻なものに移行してしまうものまで様々だと思うんですけど、いじめた方もいじめられた方にも、どちらにも良い悪いというよりは、子どもはどっちの子どもも何かを抱えている。大人の事情を子供が抱え込んでしまっていることが、すごく多いように感じるので、先生方、すごく大変だと思うんですけど、垂水市では担任の先生だけに頼らずに抱え込まずに管理職を含めて、学校全体でいじめ問題については関わってくださっているということをお聞きしているので、今後も対応していただきたいなと思います。それを教育委員会としても、サポートできるようにしていただけるといいのかなと思います。特にいじめは対応を誤ってしまうと、何でもないことだったのにすごく大きな問題になってしまったり、周りをすごく巻き込んでしまうことがあります。私も見たりしてきたこともありましたので、特に、思い込みで対応しないで、きちんと子ども達両方の言い分をちゃんと聞ける環境づくりをしていただきたいなと思っています。

それと、私は学生時代に読書についてちょっと学んだので、ずっと親になってから活動はしてきているんですけど、最近やっぱりタブレットを小さいうちから子ども達がタブレットを触るので、YouTube 見たり、も

ちろん本もタブレットで読めるので、なかなか言いづらい状況になってきてはいるんですけど、やっぱり子ども達が本を読んで、読みふけている姿を見るとすごく良いなとやっぱり感じます。紙の良さっていうがあるので、読書指導っていうのは進めてほしい、また読書指導も子ども達に、読みなさいと言うよりは、周りにいる大人、親であったり学校の先生だったり、形・態度として示してあげると言うのかな、読んでいる姿を見せてあげたり、一緒に読んだり読んであげたりという、やっぱりこう親子とか、人と人の繋がりっていうのがすごく大事なのかなって、読書においてもやっぱりそう思うところです。

今お話を伺ってきた中で、子ども達の策定については子ども達の声を反映させたいということが出てきました。タブレットを活用してのものになりそうな感じになっていたんですけど、これがアンケートなのかタブレットに書き込みなのか、どういう形になるのかちょっと今分かりませんが、ぜひ、子ども達の声、誘導されない子ども達の自然な言葉を、子ども達から引っ張りだしてほしいというのが私の希望です。子ども達、すごく素敵な言葉をだしてくれると思うので、子ども達同士でのびのびとした言葉を引っ張りだしてほしいと思います。行政においても、若い世代だけの会議とか子どもだけの会議、大人というかベテランが入らないような会議とかがあって、そういう中ですごく自由な意見や発想が出てくると、それを取り入れるとかは別としてすごく面白い事になるんじゃないかなっていうのも、常日頃思っているところです。

最後にごめんなさい、長くなって。生涯学習ですけども、先ほど福里さんからも出たんですけど、親と子どもと一緒に活動するっていうのは、それこそ学習の基本のような気がするんですけども。児童数が少ないので、本市において設定というのはすごく難しいと思うんですけど、でも、今タブレットもあるし近隣の人と車で行けばすぐだし、いろんな学ぶ場を見つけるのは、やろうと思えばかなり出来るような気がします。それで、子ども達に学んでほしいのは、大人になったときに学び直しができるということ、その方法っていうのが、色々あるんだよっていうのを、子ども達には身に着けて大人になっていってほしいなと思っているところです。

すみません、何かとりとめのない話で申し訳ないですけど、最後にもう一ついいですか。「質の高い学び」なんですけど、災害時の学びの支援ということで、今回の能登の地震の後に、やっぱり学校が避難所になって子ども達が学校に通えない状態がやっぱり起きました。それで、そんなとき子ども達にどうしたら学びを提供できるのだろうと、垂水だったら桜島があったり、垂水だって災害が絶対無いとは限らない、先日の雪のときも鹿児島市内では学校が休校になった学校もあったし、前日にタブレット持ち帰らせてGIGAの授業をしたところもあった。だからやっぱり、日常的に何かが起こったときにすぐに対応ができるっていうのを、考えていかなといけないのかなっていうのを思ったところでした。すみません

長くなって、以上です。

尾脇市長 …… はい、ありがとうございます。

多岐にわたってご意見いただきました。一つ、読書と非常に私自身も謳歌しまして本を読む習慣があって、頭の中にその様子、色まで付いて出てくるみたいな、特殊な脳の動きをするらしいですね。私が教わった中で、回路思考みたいな反応する脳の部位が違うんだと、だからタブレットで本を読んでもらうんだけど、恐らく反応している部位が違うんだと思うんですよ。だから、そのことがやっぱり将来いろんな場面において、知識を積み重ねる場面と知恵を活用する場面と、知識をベースにしなから問題解決する知恵を生み出していく、というところが非常に重要なところで、たぶんそれは、ひょっとしたらデータの管理からでしか学べないこともあるのかもしれないと思いますので、GIGA ってところでタブレットは有効な手段なんですけど、あくまでもツールと教育長がおっしゃる感じですね、それはそれで活かしながら情報を得て、そしてまた問題解決能力が出来るような環境づくりをしていただければというふうに思う所でございます。その他諸々いただきましたので、参考にさせていただいて最終的な取りまとめをしたいと思います。

田原先生お願いいたします。

田原教育委 …… かねて学校訪問をしてみて、気づいたことを話していきたいと思いま
員 す。

今、我本市ではデジタル化と言うんですかね、その中で最先端の取組がなされているようで、非常に頼もしく思っております。自分が教師として勤めたときにですね、難しいなと思いつつながら、全ての生徒に同じように理解させるというのは、授業の時間の中では非常に難しいというのを実感しております。その方法の中で、タブレットを使った教育の中で少しそれが個に応じた指導について、それが改善できる取組があるよなと思つて、期待をしているところです。例えば、みんなで話し合つてタブレットに記入してやっておりますが、その中で非常に進んでいる子ども達がいるので、そういう子ども達をリーダーとして、ミニティーチャー的にどんどん活用していけば、その子ども達も満足するし、それから先生から習うよりも子ども達から習う方がわからない子どもにもいいのかなと、人間関係も良くなるのかなと。そういうふうな活用をしてほしいというようなことと、それからもう一つは、授業の終わりにやっぱドリルをやりますが、AI ドリルというのがありますので、とくに進んでいる子ども達が停滞しているのをその子ども達にどんどん進んでほしいと。それから、ここまでは出来てほしいけれどもということ、下位の子ども達もそこまではいくように、自分のペースでやるようなんですね、週末の宿題も同じです。今まで同じ形の宿題ばかりあって出来ない子はしたくない訳です。そうでなくて、出来る範囲のものをタブレットの中で、ドリルの中でやって出来ることで進んでいく、そういう教育になってほしいなと思つています。

それから、デジタル化の中ですね、一つ考えてほしいものがあるんですよ。先生にとっては板書、子ども達にとってはノートということになると思いますが、このデジタル化になっていくと、ノートは取らなくてもいいと、タブレットの中に書き込むとか、極端になると最後にパチンと写真を撮れば済むわけですよ、理解できればそれでもいいわけですが。ただ、問題になるのが漢字の筆順とか、綺麗な文字とかいうのはタブレットじゃ難しいなど、そんなふうになった時には教育の雰囲気の部分でしょうが、ちゃんとノートに書く部分がないといけないのかなと。だから、どういうふうに兼合いを付けていくか、非常に効率的な指導ができるものですが、そんな欠点もあるよということも知っていてほしいなと思います。

それから、垂水市の場合は、問題は不登校だと思います。不登校の支援というのを考えないといけないときにきているのかなと。小学校3年頃から始まって、中学校まで行って以降、こういう子達はもう高校でもそうでしょうし、高校にも行かないかもしれない、となると生涯引きこもりになってしまうというのが一番残念なことじゃないかな。そういうことを考えれば、やっぱり居場所づくりと言いますか、学校の中に不登校支援の教室とかいうものを作って、そこに学校の先生では手一杯ですので、市から雇った世話をする先生というか世話をする人ですね、そういう人を付けて指導するということが必要かなと。また、GIGA もありますので、それによって学習も進められるのではないかと、ただこの子達を学級に帰すというのは、結構難しいかもしれない。学校に来て家から出てきて何か勉強する、あるいは運動をする、あるいは絵の好きな子は絵を描くとか、漫画の得意な子は、そういう特技と一緒に、勉強をするような場所があればいいなと。今、フリースクールとかいうところもありますけど、あれが良いとは思いませんけれども、ああいうところの手法も学ぶ、連携して学んだりすることも大事なのかなと思います。何とかこの不登校対策をしていかなければいけないのかなと思います。

それから夢というか、働き方改革で今後デジタル化されたりしますと、随分事務的な仕事は減ってくると思うので、先生方と子どもが、本当は遊んでほしいんですけど、接する時間というか、接する時間は遊びでもいいし個別指導でもいいですけど、そういう時間を持てるようになってほしいなと思います。私どもの頃には、生活の記録という日誌を子供に書かせ、毎日それを点検するのに1時間ばかりかかってコメントを書いてですね。これが要らないんじゃないかなと、心の教育、何かありますよね、心の手引きでしたけど、ああいう中で悩みのある子、曇りですか、雨ですか、そのマークが出た子どもだけ後で話をしてみるとか、そうすると本当先生達も楽になる、その代わりに何か昼休みは勤務時間ではないでしょうが一緒に遊ぶとか、そういうことを出来たらいいのになと思います。ただ、勤務時間を言われれば何とも言えませけど…。デジタル化で生まれた時間を、子どもと接する時間にしようとか、あるいは子ども

もが「先生遊ぼうよ」と引っ張ってくれるような形にすれば問題はないのかなと思ったりします。以上です。

尾脇市長 … はい、ありがとうございます。たくさんご意見頂きましたが、先程の読書に近い部分でノートに書かないという話もありまして、物理的な考え方なんですけど、ノートに書くとまた違う脳が動くらしいので、そういったところの結果は同じようなことなただけど、その辺もまた大事な視点だなと思います。それから、色々ある意味デジタル化の中で効率化して、その分浮いた時間とは言いませんが、そういった形でやれる事を考えていかなければいけないと思います。例えば市の仕事に置き換えてみますと、人口が減っているから職員の仕事も減っているんだろうかと思われがちなんですけど、違うんですね。1.5倍位に増えています。地方分権という名のもとに400の事業を移していきますから、2、30年前の人からすると1.5倍位一人当たり増えてますね。だからそういう背景も教員として、その中で全部やらなきゃいけないことはやらなきゃいけないから、例えばこの挨拶文を作るのに1時間かかるといったら、チャットGPTを使ったら1分で出来上がってきますから、丸々じゃなくて8割参考にしてやっていくと、残りの50分がそういう時間ができるので、そういうことを工夫をしながらメリットデメリットがありますから、良いところを出来るだけ活かして、足らざる部分をより工夫しながらやっていくというのが全般的に言えることなのだというふうに思います。4名の教育委員の皆様それぞれのそれそれぞれのお立場で、今垂水の中で、こうしたら良いよということでお話をさせていただきました。

それでは最後に、教育長の方から総括をお願いいたします。

坂元教育長 … はい、ではよろしく申し上げます。
田原先生のご意見、お答えになるかどうか。しかし、不思議なもんだなと思いつつご意見賜りました。まずですね、先生が考えておられることは、実は来年度からやろうとしていること、かなり重複しているということをお答えする中でくみ取っていただければと思います。

例えばDX、タブレットを使った、個においた指導。いわゆる進んでいる子と、あるいは遅れている子、リーダーという言葉も出てきました。ミニティーチャーもでてきました。私ども実はそれを考えています。もう川崎課長の方でじつは仕掛けをしてもらってですね、リーダー育成講座、GIGAスクールリーダー育成講座なるものを来年から立ち上げます。そして、学びの場で先生に代わって色んな子ども達の学習を、まさにミニティーチャーとして教えてあげる、そういうことも考えております。それと上に進んでいる子ども達の指導も話し合いました。それがまさによく教育委員会でも話題にします、自由進度学習だったり、あるいは反転学習だったり、これもう実際やってます。実践している学校、そしてとりわけ中学校で効果がありますので、中学校でも進めて行きたいなと学習法になりますね。自由進度の場合は、先生がおっしゃったとおり伸びる子はどんどん伸ばしていくと、その分、少し学習が遅れていく子ど

もについてしっかりと指導していくと。

デジタル化に伴うノートと板書の取り扱いなんですけど、結論から言うとなんて大事ですよ。書かなくなったら子供はきっと筆順なんて身につかないだろうと私も思いますし、字形も整わないだろうなと私も思ってます。ですので、例えば国語の学習では、きっちりとノートと板書というところはしっかりとするか、教科の特性、あるいは、いわゆる学びの過程の中で、まとめだとか、そういう部分については手書き、あるいは先生の板書みたいな、共通の実践事項として進めていきたいなど、まあハイブリットだろうと思うんですよ。うまく取り入れながらやっていけばいいのかなと思います。

不登校の件ですね。これについても来年度、予算が通ればですけど適応指導教室を立ち上げる予定です。そして先生がおっしゃったように人を配置して、そこでしっかりと子どもを見守ると、そしてその先にあるのは学校に帰す。そこまで考えています。もちろんこれは我々の大きな課題と捉えておりますので、また是非そういうところでのご支援を頂ければありがたいと思います。ちなみに、最近の情報によると不登校の子ども達をメタバースというんですか、仮想空間の中に入れて、そして学びの疑似体験をさせるみたいなことをやっているんですね。そうしながら社会と繋がりを保っていくと、そんなこともやっているんですね。

それと、働き方改革の件です。おっしゃるとおりなんです。子どもの心の状況は、スクールライフノートできっちり捉えて、先生がおっしゃった様に組織で対処します。ですのでその分余った時間はどうするのということなんですけど、もちろん先生によって違うんですけど、よく遊ぶ先生もいます。一方ですね、働き方改革のいわゆる浮いた時間というのは、教材研究、この時間に使うというところで、教育の質を上げて行こうというのが大方の先生方ですね。やっぱり、先生と子供のふれあいという時間は貴重ですからね、朝の短い時間でも結構ですし、あるいは昼休み時間に、ちょこっと遊んであげる、放課後少し話をしてあげる、というような事が子どもと接する時間を増やすというところを含めて話をしてもらいたいと思います。

親と子どもと一緒に活動、これはもう大賛成ですね。体験活動、本当にこれ大事だと思います。一生の宝物になると思うんですよ。親子で過ごす時間なんて、あつという間ですよ。だからこそ大事にしてほしいし、出来ればそれを心にしっかりと受け止めるために、表現してほしいですね。絵でもいいし、工作でもいいし、あるいは短い詩でもいいんじゃないですか。そういったのを記録として取っておくと、しっかりとそのことが思い出となって残っていくのかなという気がします。体験活動、これを非常に大事にしてもらいたいと思いますし、大山課長がそういうところに仕掛けをしていくと思います。

学び直しの意見がありました。これ本当に大事ですよ。大人になっていつでもその気さえあれば、あるいは今が旬だと思えばそういうもの

が準備されている用意されていることが大事です。市民講座の方もですねニーズをとらえながらそして時間帯の希望を聞きながら、毎年新たなものを入れつつやっているんですけど、なかなか講座の種類を見ても、コロナの影響なのか、非常に受講者が減ってきているというのがありますね。ですので、もう一度また仕切り直してどういったニーズがあるのか洗い出してみたいと思います。

後、読書の方は市長からあったのでいいですよ。読書に親しんでいる子どもの姿がいいですよ。本当、読書の世界に浸っている、楽しんでいるんだなど。大人、あるいは教師が本を読んでいる姿を見せるだけでも立派な読書指導と言われますけど、一緒にとにかく繋がりながら読書に関わっていくというのが大事ですので、ファーストブック、セカンドブック、サードブック事業を通して、また親子とも繋がる、友達とも繋がるというところを意識した指導をしてまいりたいと思います。

いじめの問題が出ました。軽微なものが思わぬ方向に行くと重大事態に発展すると、もうその通りだなと思います。その背景にあるのが大人の事情というところですね。ですので、家庭の教育力を含めて、家庭のありよう、これが今どうなのかなという部分を、非常に私もいっぱい、いっぱいお話したい部分があって、市P連の講演で70分話すると思いますので、令和の時代における家庭教育のあり方について話をします。

後ですね、私も香港1回しか行けなかったんですけど、随分子どもたりが変わります。わずか3泊4日の行程で行ったんですけど、その中でも見るものが全て新鮮なんですね。子どもにとっては。聞こえる英会話、あるいは広東語そういうもの全てが新鮮。匂いも新鮮。景色も新鮮。だから触発されるはずですよ。この頃はですね、帰りの飛行機の中で帰りたくないって言ってました。まだいっぱい学びたい。この子らの中には大学生になってますけど、結構良い大学に行ってます。レベルの高い。しかも英語を学びたい。ということは何を求めているかと、留学ですよ。やがては海外で仕事をしたいということですよ。是非そういう子ども達がまた二十歳の集いで帰ってきて、そういう話をしてくれるといいですね。来年対象ですよ。この子達が来年の二十歳の集い対象ですね。何を学んでいるのか話してくれたらありがたいと思いますね。その先に必ず留学とか、海外での仕事が待っていると思います。

後は、ほぼ話をしたような気がします。とにかく教育委員の皆様方は強く思っておられること、あるいは願っておられること、そういうことも十分ですね、参考にさせてもらいながら、取り入れられるところは取り入れて、子どもの声をまさに、子どもの本音を拾う良い計画を早く整えたいと思います。またこれからもよろしく願います。

尾脇市長 … はい、ありがとうございます。それぞれご発言いただきましたけれども、これ忘れてたみたいなのがあれば手短にご発言ないでしょうか。

はい。それでは取りまとめと言いますか、只今頂いたご意見を考慮して今後この計画を進めることとしてよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

ありがとうございます。

それでは次に、その他に移りたいと思います。

まず、学校教育課より学力評価についてお話があると伺っておりますので学校教育課長、お願いいたします。

学校教育課 …
川崎課長

学力につきましては、いろんな指標があるんですけど、よく耳にするのが全国学力学習状況調査、それから NRT 標準学力検査ですね。鹿児島県はですね、鹿児島県でこの 1 月にですね毎年、鹿児島学習定着度調査というのをやっているんです。今、そちらの方の結果が出つつありますので、良い機会かなと思いましたが少しまとめてもらいました。話をさせていただきたいと思います。

まず、コロナでの本市の学力につきましては、私が今年来たばかりですけど、来てからずっと捉えていたことをお話したいと思います。まず強みとして、子ども達の学校生活での落ち着き、子ども達の素直さ、これを垂水の子供達の大きな強みだなというふうに思っています。学力の数字自体はですね、年も差があるんですけど、概ね大隅地区平均は上回る事が多いです。県平均とか全国平均にはわずか届かないというところも多くみられる。これが大体これまでの垂水市の現状でした。それから、教科で見るとですね、国語については割と毎年そこそこ。課題としては何かというと、算数、数学という積み上げが必要なものですね、どこかで少し崩れてしまっている、というところが今までの傾向としてございました。ここ 3 年ですね、GIGA スクールを始めてちょうど 3 年になろうとしてますけど、3 年間取組んできたことで、子ども達の ICT の活用能力、これは先生方の使い方の違いですね、これが格段に伸びてきています。これは学校を見て回ったときにですね、使い方があるいは授業の中でどう使ってどういうふうな授業構成をしていけばいいのか、共通実践実行がそれぞれの先生方によって違って、学校とその統一感がもう一歩だったのかな。考えてみると、最初の 2 年間位はこのタブレットの操作技術の研修が主でしたので、そこから始めましたので、その授業に落とし込むまでの研修っていうのが十分されていなかったのかな、それがされ始めたのが今年度になってからなのかなと考えています。

それから、いろいろ良い問題が県、それから事務所の方からでていようです。ところがですね、学校の先生方すごく忙しいですので、いっぱいある問題の中から、この子ども達に合った適当な問題を絞り込んで、与え続けていくというのは、できにくかった。僕も学校現場に行くと、まず出来ないなと思うくらいの量がありました。そこをどうにかすればいいのかというふうに考えたところでした。ということで、この 1 年間で PDCA サイクルに落とし込もうかなというふうに思いました。P の前に R なんですけど、リサーチですね。これを 1 学期の頃から行ってまいりまして、7 月までの間に学校訪問とか、それから全国の質問紙の生活実態ですね、学習の様子とかがみれる、それから NRT、これで子供達の中

学3年生から小学2年生までの、学力の強み弱みが割としっかりできましたので、これをリサーチしました。そしてこれを元に8月になって「3本の矢から」という垂水市の学力向上施策を作りました。そして夏休み中に学校長の方に説明をしまして、教育委員会としてもそれを作成するだけじゃなくて、さっき課題としてあった色んな学習資料ですね、課題を、学校が使いやすいように10分から15分程度に子ども達が扱えるように組み合わせをして、ステップをいくつも作ってきました。当然学校の方にはそれを使ってもらわないといけませんので、活用計画とかですね、それからその見取り方というのを求めてきました。それを9月から11月まで各学校実践してもらおう、当然教育委員会としては管理職修会的时候会に、「活用状況どうですか」「また今度見に行きますね」「今どこまで進んでいますか」というものを点検したり、実際の学校訪問で本当にやっているのかそんなことをしてきました。12月にプレテストと言って、1月にある学力定着度調査に向けてですね、昨年度の問題で一旦全部やってもらいました。この狙いは何かということですね、決して学的対策というよりも、先生たちは計画的にやらしているつもりだけでも、まだまだ子ども達、このところが身につけていないよねとかですね、このところもうちょっと提言する必要があったのかな、とかいうのを先生自身が、自分事として捉えてほしかったというのでプレテストを行いました。で、12月の終わりにはですね、教育長と私二人で各学校回って、「どうですか。計画通り取組んでおられますか」というのを確認したとこでした。そして1月の中旬ですね、本番がありました。今、その集約が今日時点で、県内でWEBシステム上でするんですけど、8割5分位の学校が入力していて、残り後10%の学校がまだなんですけど、大方の数字が県の平均とも見えてきましたので、こっちの方で各学校の比較ができた状態です。そのお示しをしたいと思います。今、私達が取組んでいるのが、今度この子ども達が全国学力に4月にチャレンジしますので、そこで力を発揮してもらいたなというふうに思います。一つの問題が、4ページ5ページにわたるんですね。学校のテストとは全く違うんですね。都会の子ども達は塾に行って、この学びを経験するんです。ところが、地方の子ども達は経験すらしてないのにその場に立たされる。これはもう、残酷な状況でしかありませんので、そこはクリアしようと思って、先程のようにセットをいくつか作って、10分から15分程度で子ども達が取組める問題集・課題集を今もう送ってあり、活用計画も作成するようお願いをしているところでございます。

これからということですけど、この活用状況の見届け、それから三本の矢プランを今年8月から始めましたけれども、これ来年は4月から行いたいと思いますので、リニューアルをします。特に一番の矢は、授業改善をしないとイケない、授業を変えていかないとイケないと言っていますが、心当たり教育委員会として、このGIGAを使って一番効果的だろうというか、今までの学習スタイルと違うスタイルを作る、反転学習、

自由進度学習というのを提案しようということで、今担当の一生懸命考えているところがございます。そして来年4月から、これをスムーズに回していくというのが教育委員会としての考え方です。単純なんですけど、一番目の一の矢が事業改善、学校の課題としては何をみんなやるのか。うちの学校は、これとこれとこれはみんなやるよ、というのが明確ではない。先生方ばらばら。だからここをきちっと、言葉に表してどこかに貼ってくださいというふうをお願いして、若い先生でも誰でも言えるようにしてください。二番目の矢が、良問がせっかく用意されていますので、これを計画的に活用しましょうということです。三番目の矢がここ大事だと思うんですけど、担任レベルではなくて、担任がやったことを管理職も見届けてください、PDCA に回して学校の管理職も丁寧に見届けてくださいと言うところで、三つの三本の矢ということで、今年から始めようかということです。垂水小学校の一の矢の、共通実践事項ですけど、授業の展開の真ん中の部分で数学的な活動をするんですけど、そのときに ICT を使いましょう、今までも色んな数え棒とか使っていたけど、もっと効率的に ICT を使いましょうとか、授業の終わりの部分で振り返りをしますけれど、言葉に書かせたりあるいは練習問題で、本当に出来ているのか見届けをしましょう、これはもう絶対です。他の学校もこういうふうにして、それぞれの学校をお願いをして、2点から3点位、共通実践事項を決めています。

松ヶ崎小学校の活用計画です。教育委員会がいっぱいセットを作っていますので、それは大体このセットの中にはこの内容が入ってますよ、とお示ししてありますので、この時期に、この場で使おう。学校も忙しいですので、与えられてもどの場で使っているのか分かりにくい。だから、学校の中にある学びタイムとかあるいは宿題とかですね、色々時間を見つけて活用するのにしています。同じ問題を2回はさせましょうというので作っているんですね、他の学校も同じようにして作ってあります。

今度の定着度調査の結果なんですけど、小学校の5年生と中学校の1年生2年生が受験しました。中学校は1校しかありませんので、教育委員会で数字を出したらルール違反になっちゃうんですね。学校のデータを教育委員会が出したということで。ですから、ここでは言葉だけにしておきます。小学校は複数校ありますので、データを出しても差し支えありません。4教科全てで、地区と県の平均をいずれも超える見込みです。大体県で、108から110位に今年になる見込みです。社会・算数は特にですね、県で110は大きく超えるんじゃないかなと思っています。青が垂水市、それから大隅地区、県ですね。よく大隅地区、学校教育課題があると言われますけど、県平均するとどの教科もやっぱり現時点で低いですね。でも垂水市は県平均よりかも、どの教科も今、途中経過高い。大体こういう形になると思われれます。それぞれの学校が一生懸命頑張ってくれて。ある学校はですね、子ども達に後からアンケートみた

いなのを取ったらですね、こども達がですね、一生懸命頑張った、今までで一番勉強したかも、でもテストのときより、もう本当手ごたえがあった。すごく返ってくるのが楽しみだっていう子ども達の意見がたくさん出ていますので、これはやっぱり私達が狙っていることなのかなと、次の意欲に繋がるのかと思います。算数がすごく上がったかなと思います。中学校1、2年生ですけど、5教科総合で、これも県平均をかなり超える見込みです。大体107くらい県比でなるんじゃないかなというところですよ。2年生はですね、5教科総合で県平均と同じくらい、ちょっと超えるくらいの見込みです。算数・数学が課題だったんですけど、これがかなり今年高まったかなというふうに思います。子ども自身がやって良かったとか、勉強って楽しいなって思ってもらえるのが私達の目標ですので、それに応えるような取り組みをしていければと思っていますところですよ。私の方からは以上です。

尾脇市長 …… ありがとうございます。
非常に嬉しい通知ですので、頑張って結果が出るというのは何より素敵なことだと思いますので、引き続いて頑張っていただければと思います。

坂元教育長 …… 課長が今、子どもの声をおっしゃいましたけど、実は定着度調査の振り返りをですね、スクールライフノートに書かせたんですよ、担任が。この中身が非常にポジティブな言葉がいっぱいありますね。例えば、自分の実力がしっかり出せたとか、自信が出てきたとかですね、意外と簡単だったとか、諦めないことが大事だとかですね、最後までやり切って嬉しかったとかですね、見直しを何回もしてよかったとかですね、今までで考えられない表現が出て来ています。終わった後の解放感がとても気持ちいい、それくらい頑張ったっていうことですよ。そういうのを学級担任が拾って、学級便りで配っているみたいですよ。保護者もこれで喜ぶと思うんですよ。頑張ったんだねって材料になりますよね。いわゆる学びに向かう力も子ども達にこの結果を自信に変えてまた次に頑張ってもらいたいです。

尾脇市長 …… ありがとうございます。他にございませんか。
それでは、本日の協議事項は終了いたしましたので事務局へお返しいたします。

企画政策課
草野課長 …… ありがとうございます。
本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。
これをもちまして、令和5年度第1回垂水市総合教育会議を閉会します。ありがとうございます。